

「メディカルアスレチックトレーナー」育成プログラム

MAT
メディカル アスレチックトレーナー

選手をあらゆる角度から総合的に支える
メディカルアスレチックトレーナー (MAT)

医療大学である「明治国際医療大学」が描く未来のトレーナー像

～令和は、アスレチックのみならずメディカル、テクノロジーを融合したトレーナー (MAT) の時代へ～

競技スポーツの普及・発展と共にメディアで広く紹介されるなど「アスレチックトレーナー (ATC)」という言葉は現在一般的となっています。アメリカではNATA (全米アスレチックトレーナーズ協会) 認定のATCが、選手にとって最善のコンディションをつくり、最高のパフォーマンスに導く役割を担うなど、その資格および地位が確立されています。しかし、日本では、日本スポーツ協会、JATAC (特定非営利活動法人ジャパン・アスレチック・トレーナーズ協会) が発行する資格が普及しつつあるものの国家資格ではなく、はり師・きゅう師、柔道整復師のように明確に決められたものがないのが現状です。

そこで医療系大学の本学では、これまで西洋医学と東洋医学の融合を進め人々の健康に寄与してきた経験を最大限に活用。医療資格を持ち、選手のパフォーマンス発揮に不可欠な知識をはじめ、スポーツ栄養学や心理学、コンディショニングおよびリハビリテーション、さらに本学オリジナルの体調管理アプリ「MY TRAINER」など最新テクノロジーを駆使した科学的アプローチにより、選手はもろもろ子供から高齢者まで、健康を願う人々をあらゆる角度から総合的に支えることのできるメディカルアスレチックトレーナー (MAT) を育成するプログラムを2019年度からスタートしました。

本学のMAT資格の特長となるのが、鍼灸、柔道整復の医療資格取得を目指す学びと並行し、JATACで習得する学びを含め、4年間で300時間を超える実習です。合わせてトレーナー部の活動を通じ各種大会やスポーツイベントで学内外のトップアスリートをサポートするなど数多くの実践を積み重ねて即戦力として力を磨くことができます。東京五輪を控え、スポーツへの関心が高まるなかATCへの注目度もアップしています。MATは本学が初めて作った資格でもあり、医療従事者として医療のこと、身体のこと、さらに競技のこと、健康のことを理解した総合的な資格となるよう取り組んでいきます。



京都・南丹から、全国、世界へ躍動。

強化指定クラブの選手たちの活躍の軌跡をレポート。

メディカル

Medical

鍼灸学科・柔道整復学科の学び。スポーツ栄養学・心理学、脳科学などの知識。



アスレチック

Athletic

コンディショニング及びリハビリテーション。JATACのACT資格取得に必要な知識や技術。



明治国際医療大学が育てるアスレチックトレーナー

フィールドワーク

Fieldwork

学内外での300時間を超える豊富な実習で経験値がアップ。



テクノロジー

Technology

ウェアラブル端末やアプリを活用した情報収集とデータ分析・解析、適切なフィードバック。



子供から高齢者まで日々の健康管理に最適 ～アプリで簡単、体調チェック～

スポーツ、部活動に打ち込む中学・高校生はもちろん、子供から高齢者までの日々の体調管理用に開発された大学オリジナルのトレーナーアプリ「MY TRAINER (YOMOGI)」(無料)。手順に沿って質問に答えるだけで、現在の心や栄養の状態などを含めた体調はもちろん、足りない要素や最適なトレーニング方法などを確認することができます。身体の状態を把握することで体調管理や故障予防、さらに科学的データの活用などを含めスポーツでの成績アップにもつなげることができます。ぜひご家族でご活用ください。



本学初のVリーガー & なでしこリーガーが誕生!! 夢を叶え、新たな舞台へ

男子バレーボール部の浅草大耀選手(鍼灸学科4年)が男子Vリーグ2部の兵庫デルフィーン、女子サッカー部の浦川璃子選手(柔道整復学科4年)がなでしこリーグ1部のアルビレックス新潟レディースにそれぞれ入団が決まりました。いずれも本学初となるVリーガー、なでしこリーガーとなります。浦川選手の背番号は『28』。リーグでもトップクラスとなる180cmの長身を活かした空中戦を得意としており、ディフェンスはもちろん、高い攻撃力でチームへの貢献が期待されています。また、浅草選手は3年次にはり師・きゅう師の国家試験に合格している関係もあり、選手兼トレーナーというVリーグでも極めて珍しい登録となっています。2019年の12月にすでにリーグデビューを果たしており主軸として活躍しています。ここでは、夢を叶え上位リーグにチャレンジするふたりに、大学での4年間、成長の軌跡や今後の目標などについて話を聞きました。

—上位リーグでプレーすることが決まった今の感想は？

浅草 すでにリーグでプレーしていますが、大学との実力差を感じつつも、スピードやパワー面などに徐々に慣れ、課題も見えてきているので、やっていける手応えはあります。トレーナーとのダブル登録なので、自分の持ち味を活かし、チームと共に成長していければと思います。

浦川 背番号も決まり、新しいチームの練習にも参加させていただき、このチームでプレーするんだという実感が強くなりました。地域の皆さんからすごく愛され応援されているチームでもあり、活躍して喜んでもらえるよう頑張りたいです。



女子サッカー部 浦川璃子選手(柔道整復学科4年)
なでしこリーグ1部 アルビレックス新潟レディース

—4年間を振り返り、何が成長につながったと思われるか？

浦川 大学で身体のことを深く学びプレーの幅が広がりました。また高校まではケガが多く納得した結果が残せませんでしたが、自分で考えてトレーニングに打ち込むことができるようになったことで、ケガも減り、フィジカル面も向上しました。こうした日々の積み重ねが上位リーグ入りにつながったと思っています。

浅草 好きなバレーボールを続けるためには、しっかり勉強もしないと行けなかったため、自然と相乗効果となり、無理なく両立できたと感じています。目的・目標をきちんと定め、そのために今何をしなければいけないのかを考えて生活できるようになったことが大きいですね。これは、将来、選手のパフォーマンスを向上させることのできるトレーナーになるという目標にもつながっていると思っています。

浦川 思い出に残っている授業・実習は、接骨院などでの臨床実習です。患者様への声掛けや接し方、処置法などいろいろなケース・パターンがあり、それを実際に見学することで、いろいろな気づきがありました。

浅草 それまではどちらかというとバレーボール中心でしたが、3年で国家試験に合格したことで、医療人としての自覚も芽生え、将来の目標もより明確になりました。確かに大学での勉強は高校までとは違い、初めて学ぶことばかりで大変ですが、どれも競技や自分の将来に直結する学びなので、苦にはなりません。かえて自分のパフォーマンスアップにつながるものが多かったと思います。

—後輩や高校生にメッセージをお願いします。

浅草 実際、スポーツだけを目指すのであれば、他大学の道もあると思います。でも、スポーツの強豪大学に行かずとも、自分の努力次第で上を目指せる。環境やレベルのせいにするのではなく、自分が決めた目標に向かって突き進む。本学は、サポート面は充実しており、勉強、スポーツに打ち込むことができました。それをプレずにやってきたことが国家試験の合格、大学リーグでの結果、Vリーグにつながったと思います。皆



さんも自分の夢や目標に向かって頑張ってください。
浦川 私も本学に入学するまでは、ほとんど柔道整復師のことも知りませんでした。先ほどもお話ししましたが、身体の使い方や動かし方、動作の仕組みなどについて知ること、競技、プレーに対する考え方、発想もすごく変わりました。この大学に来ていなければ気がなかつたことだったと思いますし、この経験を今後のサッカー人生、引退後の目標に活かしていきたいと考えています。医療大学ならではの気付きや発見があると思うので、それを成長の土台に頑張ってください。



男子バレーボール部 浅草大耀選手(鍼灸学科4年)
男子Vリーグ2部 兵庫デルフィーン

PRESS 女子柔道部 上田選手が全日本学生体重別で 5位入賞 & 講道館杯出場

6月の全日本学生柔道優勝大会の女子団体戦3人制で初優勝に輝いた女子柔道部。後半戦は個人戦でも気を吐き、上田莉圭選手(鍼灸学科2年)が全日本学生柔道体重別選手権大会の78kg超級で見事に5位入賞。その結果が認められ、日本の一線級が集う講道館杯全日本柔道体重別選手権大会出場を果たすなど活躍しました。他にも全日本ジュニア柔道体重別選手権大会の63kg級で足達実佳選手(柔道整復学科1年)が7位と健闘しました。



講道館杯出場を果たした上田選手

大会結果	
● 9月14・15日(土・日)2019年度全日本ジュニア柔道体重別選手権大会	63kg級 7位 足達実佳(柔道整復学科1年)
● 9月28・29日(土・日)2019年度全日本学生柔道体重別選手権大会(女子35回)	78kg超級 5位 上田莉圭(鍼灸学科2年)
● 11月2・3日(土・日)2019年度講道館杯全日本柔道体重別選手権大会	78kg超級 1回戦敗退 上田莉圭(鍼灸学科2年)
● 11月16日(土)第16回済谷杯全国学生柔道体重別選手権大会	48kg級 優勝 中山さつき(看護学科2年) 3位 高森来春(柔道整復学科1年) 57kg級 2位 林美七海(鍼灸学科2年) 63kg級 優勝 足達実佳(柔道整復学科1年) 78kg級 3位 西村美穂(柔道整復学科1年)

PRESS 陸上競技部 日本インカレで仲西が7位 若山が自己新で締めくくる



日本インカレで7位に食い込んだ仲西選手

後半戦のメインである日本インカレでは、男子ハンマー投に出場した鍼灸学科4年生の仲西隆世選手が7位に入る健闘を見せました。また、今季最後の公式戦となった関西学生種目別選手権で、日本選手権にも出場している若山哲也選手(柔道整復学科3年)が2019年日本ランク13位・学生リスト6位となる64m43の自己新をスローし2位と気を吐きました。

大会結果	
● 8月22・23日(木・金)第76回全日本医歯薬獣医大学対抗陸上競技選手権大会	男子総合 優勝 107.5点 女子総合 優勝 95点
● 9月12～15日(木～日)天皇賜盃第88回日本学生陸上競技対校選手権大会(日本インカレ)	男子ハンマー投 7位60m34 仲西隆世(鍼灸学科4年)
● 9月21日(土)第29回関西学生対校女子駅伝競走大会	13位 1時間55分13秒(6区間)
● 10月15～18日(火～金)2019関西学生陸上競技種目別選手権大会	男子棒高跳 3位4m80 藤川昂琉(鍼灸学科3年) 男子ハンマー投 2位64m43 若山哲也(柔道整復学科3年) 3位60m94 田村啓斗(鍼灸学科3年)

PRESS 女子剣道部 団体戦で日本インカレ初出場果たす



全国に第一歩を記した女子剣道部、チームをけん引した阿瀬知主将

個人戦では、日本インカレ出場を逃しましたが団体戦で奮起。秋の関西予選でベスト8に食い込み初の全国切符を手にした女子剣道部は、愛知県で行われた全日本女子学生剣道優勝大会(団体戦5人制)で見事に1回戦を突破し、全国の舞台に貴重な一歩を記しました。

大会結果	
● 9月22日(日)関西学生剣道優勝大会(女子43回)	5人制団体戦 ベスト8
● 11月10日(日)第38回全日本女子学生剣道優勝大会(日本インカレ)	5人制団体戦 2回戦敗退 ☆関西・全日本出場メンバー:田崎恵理(鍼灸学科4年)宮城怜奈(看護学科3年) 阿瀬知瑞希(看護学科3年)中園美希(看護学科3年)西原好実(看護学科3年) 野口美琉(看護学科3年)市瀬未季(看護学科2年)
● 11月24日(日)第32回関西学生剣道新人大会	個人戦 ベスト8 原田真琴(看護学科1年)

PRESS 女子バレーボール部 7戦全勝で3部初V 悲願の2部昇格



2部昇格を果たした女子バレーボール部。3部MVPと活躍した三杉選手(中央奥)

春季リーグは3部3位だった女子バレーボール部。秋季リーグは、初戦の京都教育大学戦からストレート勝ちを収めるなど流れをつかむと、その後も連勝街道をばく進。終わってみれば、男子同様7戦全勝で頂点に立ち、悲願の2部昇格を果たしました。また、3部優勝の立役者としてチームをけん引した三杉穂乃香選手(看護学科2年)が3部MVPに輝きました。

大会結果	
● 2019年度関西学生バレーボール秋季リーグ戦(女子3部)	優勝 7戦全勝 2部昇格
VS 京都教育大学	3-0
VS 京都華頂大学	3-0
VS 桃山学院教育大学	3-1
VS 関西外国語大学	3-2
VS 兵庫大学	3-0
VS 同志社大学	3-0
VS びわこ成蹊スポーツ大学	3-0
※3部女子MVP 三杉穂乃香(看護学科2年)	

PRESS 女子サッカー部

大会結果	
● 2019年度関西学生女子サッカー秋季リーグ(1部)	6位 1勝1敗5分 勝ち点8 1部残留
VS 武庫川女子大学②	1-1 ▲
VS 姫路独協大学③	3-5 ●
VS 聖泉大学④	1-1 ▲
VS 大阪体育大学①	1-1 ▲
VS 関西大学⑦	0-0 ▲
VS びわこ成蹊スポーツ大学⑧	4-1 ○
VS 追手門学院大学⑤	0-0 ▲
※○数字は最終順位 上位4チームが全国出場<日本インカレ>	

PRESS 男子バレーボール部

大会結果	
● 2019年度関西学生バレーボール秋季リーグ戦(男子3部)	優勝 7戦全勝 2部昇格
VS 神戸大学	3-1
VS 大阪大学	3-0
VS 京都大学	3-1
VS 大阪経済法科大学	3-0
VS 姫路独協大学	3-0
VS 大阪市立大学	3-2
VS 佛光大学	3-1
※3部男子MVP 浅草大耀選手(鍼灸学科4年)	